

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第5回理事会 開催日：12月19日。出席者：武田会長，ほか42名。

1. 名誉会員推挙の件
荒木前会長，Mr. W. J. DeLancey (AISI 会長) の両氏を来春名誉会員に推挙することを決定した。
2. 昭和56年度収支予算案の件
一般，ISO/TC17, ISO/TC17/SC1 の3会計の支出予算合計は9億0500万円となり維持会員各社には3993万円の負担増額をお願いすることになった。しかし今後の予算編成を念頭におき，収入増を図るとともに，各事業のあり方を考慮し支出減に努め，57年度においては，同じベースでの維持会費増とならないよう努力することになった。

編 集 委 員 会

第10回和文会誌分科会 開催日：12月5日，出席者：田中主査，ほか19名。

1. 18件の論文審査報告がなされ，掲載決定11件，修正依頼3件，その他4件であった。
2. 「鉄と鋼」第67年第6号(4月号)に論文10件掲載決定した。

第10回欧文会誌分科会 開催日：12月12日。出席者：中村主査，ほか9名。

1. 11件の論文につき審査報告がなされ，掲載可2件，照会后掲載可5件，修正依頼3件，一旦返却1件であった。
2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，1件の研究論文と2件の Report を勧誘することとなった。

共 同 研 究 会

製 鉄 部 会

第57回部会 開催日：11月12日～14日。出席者：樋口部会長，ほか119名。

日新・呉で開催された。

1. 共通議題として「溶銑品質の管理について」として，溶銑品質をとりあげ低 Si 操業，[S] レベルの問題等を討議した。資料は14件提出された。又，自由議題として6件が報告された。

特別講演として「高炉の長寿命化について」(新日鉄・君津)，「実物大装入物分布モデルによる実験と高炉の装入物分布に関する考察」(鋼管・技研)が行われた。

条 鋼 部 会

第32回大形分科会 開催日：11月13日～14日。出席者：吉岡主査，ほか97名。

開催地：鋼管・福山

- 1 工場操業状況報告

2. テーマ研究

「矯正作業の現状と問題点」

3. 自由研究

(1) 大形鋼寸法形状測定装置開発

(2) 形鋼圧延におけるロール開度零点調整方法の改善

4. 工場見学 鋼管・福山

第49回中小形分科会 開催日：11月6日～7日。出席者：森脇主査，ほか135名。

開催地：川鉄・水島

1. 工場操業状況報告

2. テーマ研究

「要員配置と合理化事例」

3. 自由研究

4. 工場見学 川鉄・水島

運 輸 部 会

第5回部会 開催日：11月20日，21日。出席者：大橋部会長，ほか133名。

1. 場所 日新・呉

2. 議事概要

(1) 共通議題

「内航輸送の実態と合理化について」及び「物流システム化の実態について」の二テーマについて各小委員会から発表が行われた。

(2) 自由議題

共通議題に関連する改善事例13件の発表が行われた。

(3) グループ討議

内航輸送関連と物流システム関連の二グループに分かれ，更に詳細な討議が行われた。

3. 工場見学

日新・呉の原料岸壁と製品埠頭の設備を中心に見学を行った。

品 質 管 理 部 会

第43回部会 開催日：10月28日～29日。出席者：西澤部会長，ほか98名。

鋼管・福山で開催された。

1. 共通議題 I 「品質保証監査制度の実態と問題点」(12件)と共通議題 II 「社内規格標準類の現状と問題点」(5件)の報告があつた。又，各共通議題に対し，各社よりアンケートの提出があつた。

標 準 化 委 員 会

整 合 性 調 査 特 別 委 員 会

第2回鋼管調査分科会 開催日：11月13日。出席者：丸岡主査，ほか11名。

1. C表の作成方針についての検討。

(1) B表作成に十分な内容とし，書入の密度については各人の判断にまかせる。

(2) 種類は，JIS の用途，適用範囲と同じ。ISO種

類は、対応 JIS の有無にかかわらず記入する。

2. B表の作成方針について検討。

- (1) JIS 鋼管規格のうち、ISO 2604 の一部に対応するものについては、各項目ごとに「ほぼ等しい=1」「軽微な差=2」の判定基準をきめた。
- (2) JIS に対し、対応する ISO が複数ある場合でも B表、C表は 1表にまとめる。

第 2 回鋼質試験調査分科会 開催日：10月30日。出席者：石川主査，ほか 15 名。

1. 整合性調査マニュアルの改正要点についての説明
2. 整合性調査結果について検討
 - 1) JIS G 0560 鋼のサルファプリント試験方法
 - 2) JIS G 0561 鋼の焼入性試験方法について
 - 3) JIS G 0551 鋼のオーステナイト結晶粒度試験方法
 - 4) JIS G 0552 鋼のフェライト結晶粒度試験方法及び JIS G 0553 鋼のマクロ組織試験方法
 - 5) JIS G 0555 鋼の非金属介在物の顕微鏡試験方法
 - 6) JIS G 0556 試の地さずの肉眼試験方法
 - 7) JIS G 0557 鋼の浸炭硬化層深さ測定方法
 - 8) JIS G 0558 鋼の脱炭層深さ測定方法
 - 9) JIS G 0559 鋼の炎焼入及び高周波焼入硬化層深さ測定方法

第 2 回ステンレス鋼調査分科会 開催日：10月23日。出席者：森田主査代行，ほか 14 名。

1. C表について各担当会社委員から記述内容について、特に問題点を中心に説明があつた。
2. B表作成方針について、G4312 の例及び整合性評価のステンレス鋼分科会としての判定基準の例の説明があつた。各委員は分担に従い、次回会議に B表を持ち寄ることとした。なお、B表作成に当たっては評価の根拠をメモ書きして B表と同時に提出する。

ISO 鉄 鋼 部 会

第 17 回 SC7 分科会 開催日：10月30日。出席者：石川主査，ほか 15 名。

1. ISO 規格 5 年後の見直しに対する回答を以下 3 規格について作成した。
 - (1) ISO 3763
 - (2) ISO 3754
 - (3) ISO 3887

第 25 回 SC9 分科会 開催日：11月12日。出席者：有賀主査，ほか 7 名。

1. 本年10月28日～30日オランダのハーグにて開催された第 15 回 SC9 国際会議出席報告を行った。本会議で決定あるいは検討要請され、SC9 分科会としての推進事項をまとめると次のようになる。

- (1) ティンフリー・スティールの硬度保証体制及び技術内容の整理まとめ。
- (2) ティンフリー・スティール付着量に対する日本の実情及び技術内容の整理まとめ。
- (3) 低目付量ぶりに対する見解の統一。

第 65 回普通鋼分科会 開催日：11月12日。出席者：

小倉主査，ほか 10 名。

1. 80キロハイテン
2. サブサイズシャルピテストピース
3. SPV, SLA 板厚拡大
4. 表示の告示

第 4 回 JIS 鋼矢板原案作成分科会

開催日：10月16日。出席者：福岡主査，ほか 15 名。

1. 前回審議の鋼管矢板の懸案事項及びメーカー側検討事項に対する回答を盛り込んだ資料をもとに西田幹事から説明があり、逐条審議を行った。
2. 鋼管矢板と熱間圧延鋼矢板の 2 規格の表現上の統一をはかった。
3. 以上で 2 規格の原案審議を終了し、あとは事務局で整理案を作成し、書面で審議することにした。

高温強度研究委員会

第 13 回高温熱疲労試験分科会 開催日：11月21日。

出席者：雑賀主査，ほか 17 名。

Alloy 800 に関する文献 77 件余りを収集し共同研究参加の 19 機関にそのうち 67 件を分担割り当てを行い各機関に 3 件～4 件の整理をお願いしていたが、その中間報告が次のように実施された。

- (1) Alloy 800 文献整理結果の中間報告について 本日出席の 11 機関より、クリープ関係 7 件、疲労関係 8 件、腐食関係 9 件、応力腐食割れ 6 件計 30 件について整理カードをもとに報告が行われた。以上で予定の時間がきたので本日は終了し、次回は残りの 8 機関の報告を受けることとなつた。ついで、幹事より新たに 4 機関に参加をお願いし 12 件の文献がそれぞれ割り当てられた。

第 2 回クリープ強度外挿法分科会 開催日：11月28日 出席者：藤田主査，ほか 14 名。

前回の分科会で勉強会のため 7 テーマの文献が 7 機関の委員に割り当てられその翻訳が依頼されていたが、本日の分科会では次のように 4 テーマについてその概要が報告された。

- (1) 残存寿命概念に基づくクリープ損傷の評価 (D. A. WOODFORD)
- (2) クリープ破断データの相関および外挿法の 1/4 世紀にわたる進歩 (S. S. MANSON and C. R. ENSIGN)
- (3) Statistical Method for Creep, Fatigue and Fracture Data Analysis (G. J. HAHN)
- (4) クリープとクリープ破断データを扱うためのパラメータ法の発展 (Isin Le MAY)

ついで、新たに 5 テーマの文献が幹事より 5 機関に追加割り当てが行われ、次回は前回割り当ての残り 3 件と本日割り当て 1 件を加え計 4 テーマを報告することが了承された。

第 41 回材料研究委員会 開催日：12月11日。出席者：大橋委員長，ほか 11 名。

開催地：新日鉄・基礎研

1. 研究発表

- (1) 2Vシャルピ衝撃特性値の意義について
- (2) ばね鋼の破壊靱性試験結果
- (3) 焼ならし鋼の靱性

2. 見学

新日鉄・基礎研の所内見学を行った。

(3) 第1回 SCI 諮問分科会報告

2. 下記案件について審議が行われた。

- (1) 次回国際会議
- (2) 昭和55年度 SCI 事務局予算執行状況
- (3) 昭和56年度 SCI 事務局予算案

国際会議は1982年5月東京開催の線で昭和56年度予算は来年度事業計画承認の下に基本線が了承され次回運営委員会で決定することになった。

第6回 ISO/TC17 事務局専門諮問部会

開催日: 10月14日. 出席者: 青木部会長, ほか17名.

1. 10月27, 28日 Stockholm で開催される第4回 TC17/EC 会議の予定議題と関連資料が報告された.

2. 予定議題のうち特に下記3点について, 議長および事務局の方針が説明された.

- (1) SC structure の再編成
- (2) TC 5 問題
- (3) 耐候性鋼規格 DIS 4952 および 5952 について

3. 専門諮問部会 (TAG) ワーキンググループについて

- (1) TAG/WG 2-INSM の設立が承認された.
- (2) TAG/WG 1-SC. structure の再編成は解散しないことになった.

第2回 SCI 事務局運営委員会

開催日: 11月28日. 出席者: 狐崎委員長, ほか17名.

1. 下記事項について報告が行われた.

- (1) 事務局業務進捗状況
- (2) 海外出張報告 (ヨーロッパ, 南アフリカ)

鉄鋼基礎共同研究会

第2回融体精錬反応部会 開催日: 10月27日. 出席者: 森部会長, ほか23名.

1. 研究発表

- (1) 固体鉄飽和りん酸塩スラグの熱力学
- (2) 溶銑処理温度におけるスラグ-メタル間のりんの分配
- (3) 石灰系フラックスによる溶銑の脱燐
- (4) LD転炉における複合吹錬法について
- (5) 取鍋内溶鋼の超低硫化処理
- (6) 低温領域における高クロム溶鋼のCaによる脱りん反応
- (7) 溶鋼の復りん反応について

2. 研究方針

- (1) スラグ-溶鉄間脱燐・脱硫反応の平衡論的・速度論的研究
- (2) スラグ-溶鉄間精錬反応のプロセス工学的研究

第3回高温変形部会シンポジウム案内

1. テーマ 第3回高温変形部会シンポジウム「高温変形と高温破壊」
2. 日時 昭和56年2月17日(火) 9:00~17:00
3. 場所 経団連会館14階 経団連ホール(東京都千代田区大手町1-9-4 電 03-279-1411)
4. 参加費無料 自由参加 テキスト代 約3,000円
4. プログラム 挨拶 部会長 京大 田村 今男

I. 高温変形機構

- Keynote Lecture 「高温変形機構」
- 問題提起 (1) 「高温変形の回復速度と高温変形条件」
- (2) 「動的再結晶挙動の問題点」
- (3) 「動的再結晶の生成過程の特徴及び静的再結晶との比較」

九大 吉永日出男
横国 遠藤孝雄
電通大 酒井拓
京大 牧正志

II. 高温変形抵抗

- Keynote Lecture 「鋼の熱間変形抵抗」
- 問題提起 (1) 「Nb 鋼の高温変形抵抗」

広大 大森正信
川鉄 榎並禎一

III. 高温延性と高温破壊

- Keynote Lecture 「高温破壊と粒界すべり」
- 問題提起 (1) 「1200~600°C 温度域における鋼の脆化特性」
- (2) 「高温変形機構と熱間延性」
- (3) 「リムド鋼の未凝固圧延について」
- Keynote Lecture 「鋼の高温粒界破壊」
- 問題提起 (1) 「オーステナイト系ステンレス鋼の高温延性と粒界析出」
- (2) 「SUS 309 S ステンレス鋼の熱間加工性」
- (3) 「二相ステンレスの熱間加工性」

東大 堀内良
新日鉄 鈴木洋夫
鋼管 三瓶哲也
住金 白石博章
東北大 須藤一
日新 星野和夫
大同 伊藤幸生
新日鉄 小林尚

5. 連絡先・担当者

日本鉄鋼協会技術部 大山高司 〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階 電話 03-279-6021